

第2回働き方改革推進拡大会議における委員の主な発言について



平成31年2月15日
千葉県教育庁教育振興部教職員課
電話043-223-4036

県教育委員会では、平成31年2月4日（月）に第2回働き方改革推進拡大会議を開催し、学校における業務改善の方向性や具体的施策について関係各課及び有識者による協議を行いました。

協議における委員の主な発言について、報告いたします。

【協議における委員の主な発言】

1 文化部活動ガイドラインの策定について

- 内容については、特段の問題はない。
- 特別支援学校は、運動部、文化部ともに活動しているが、本ガイドラインに沿った形でやることに問題はない。
- 小学校においても、文化部活動は非常に盛んである。運動部同様に小学校についての記載もあり、内容には問題はない。
- 市によっては、運動部・文化部を一本化した基本方針を既に策定している。その後、各学校の年間指導計画を踏まえ、保護者向けの説明も行ったが、特段問題は無いようである。
- 郡部は、外部指導者の確保が困難であり、小学校の金管バンドや中学校の吹奏楽部などの指導者が不足しており、顧問がやらざるを得ない状況にある。
- 外部指導者の確保に向けた調整等を市町村教育委員会や県教育委員会が人材バンクという形で取りまとめ、情報提供してもらえるとありがたい。

2 今後3年間の計画について

(1) 中教審答申及び文科省ガイドラインにおける勤務時間の上限の目安時間

- 月45時間という超過勤務の上限は、非常に難しい。そうなれば、素晴らしいとは思いますが、夢物語になってしまっはいけない。
- 月45時間は、抜本的な改革なしにはできない。今年度、週当たりの在校時間60時間という目標を掲げたのであれば、それに向かって進んでよいのではないか。
- 月45時間、年360時間を果たすべきではないかと考える。民間は罰則を設けることになっているが、教育の世界だけが聖域としてそのままというのはありえないのではないか。
- 民間では、月30時間を超えるだけで問題になる。達成できそうな目標も大事だが、思い切って高い目標を立て、抜本的に変えていくことが必要ではないか。

- 目標を高く掲げないと、達成しようという努力もしないのではないか。優秀な人材が教職に就きたいと思えるような職場にしなければならない。
- 一気に月45時間という意見もあろうが、学校現場での混乱もあるのではないか。保護者、地域を含む社会全体が働き方改革に関わり、意識改革から始めることが必要である。まずは、今年度の課題に対して取り組んでいけばよいのではないか。

(2) 中教審答申及び文科省ガイドラインにおける業務の役割及び部活動指導

- 学校教育活動における部活動の存在感は大きい。部活動をスリム化して働き方改革を進めるのは必要だが、保護者や地域の方々に丁寧な説明が必要である。働き方改革が進むことで、教育の質が下がることはあってはいけない。
- 町ぐるみで学校を巻き込み、地域活性化につなげているケースもあり、学校だけの改革とはいかない。いかに良い職場にしていくかという視点で、地域を含めての意識改革が必要である。
- 地域、保護者を含めた役割分担、適正化については、一様に理解を得られているが、働き手が増えている現在の社会情勢から、地域に委ねることが難しくなっている面もある。保護者、地域の理解を得られるよう、丁寧な説明が必要である。また、委ねる際には、思い切って任せないと結局は教職員の負担軽減にはつながらない。
- 特別支援学校では、一人一人へのきめ細やかな対応や専門性が求められるといった側面がある。業務の役割分担については、登下校や見回りなどは子供たちをよく理解している教員が対応する方が良いという部分がある。
- 県から、スクール・サポート・スタッフを配置してもらっているが、印刷等の事務作業をしてもらうことで教員の負担が減ってきている。今後、拡充してほしい。

3 「プラン」の見直しについて

- 新しい取組をする場合には、時限を設定して、本当に必要かどうかを見極めることが必要である。統合型校務支援システムは、サーバーで資料等を共有化でき、教員の負担も減るのではないか。教職員が、授業力で勝負できる環境を整えたい。
- プランの内容自体は良くできているが、取組を実施するに当たり、各種サポートや事業の活用等の情報提供も必要だと感じる。
- 部活動は、大会が多すぎるため、参加の精選が必要。吹奏楽部等のイベントや行事への参加も含めて、市町村部局と連携しながら、社会全体としての意識改革が必要である。
- 他県では、県教委や校長会、PTA連合会等の連名で「働き方改革を応援する」旨のメッセージを発信しているところもあるので、そのような取組はどうか。
- 欧米では、タブレットの使用も進んでいる。是非、積極的な導入をしてほしい。